

## 使徒言行録 13 章 13－25 節 「神の約束」

13節からパウロ中心の宣教旅行となります。ペルゲを出て、ピシディア州のアンティオキアへ到着したパウロとバルナバは、安息日に会堂で礼拝に出席しました。ここで彼らは、説教をすることを求められたのです。彼らにとって、願ってもない宣教の機会が訪れました。そこで、パウロは立ち上がり、話し始めます。

「イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください」と呼びかけ、イスラエルの歴史を語りだします。7章のステファノの説教と、この時のパウロの説教の違いは、パウロはイスラエルの罪ではなく、神がイスラエルの歴史において、どのように救いの御業を成し遂げてくださったか、です。神は先祖アブラハムを選び、イサク、ヤコブ、12人の息子たちと70人からなる大家族を形成され、エジプトにおいて、奴隷状態にあったイスラエルの民を高く上げた御腕をもって、救い出してくださいました。イスラエルの民が、カナンの地に定住できたことは、アブラハムへの神の約束が空しいものとならず、実現したことを雄弁に物語っているわけです。また、その後の歴史において、神はダビデと一つの約束、契約を結ばれています。それが、サムエル記下の7章に記されている、ダビデ契約と呼ばれるものです。神は、ダビデに、「あなたの身からでる子孫に跡を継がせ、その王国を揺るぎないものとする」と約束してくださいました。そして、この約束は、ダビデ個人への約束に留まらず、イスラエルの民への希望の約束となったのです。ダビデ契約は、いつしかダビデの子孫から救い主、メシアがお生まれになるという約束として理解されるようになったのです。そして、パウロは、神はその約束を今や実現してくださいました。その約束に従って、神はダビデの子孫から救い主イエスを送ってくだり、イエスこそ救い主・キリストだと多くの人に伝えたのです。

神はその都度、必要な指導者を立てていきました。それぞれの指導者は、神が御自分の民イスラエルにお与えになった恵み、賜物であると言えます。神様は御自分の民を、その約束に従って祝福し、その時代、時代に指導者を与えになり彼らを守り導かれたのです。自分に背き続けるイスラエルに対して、神は憐れみ、その憐れみゆえに、神はダビデとの約束を実現してください、ダビデの子孫からイエス・キリストを遣わしてくださいました。神は、独り子を世にお与えになることによって、イスラエルとの約束を実現してくださいました。神は、主イエスの出現に先立ち、洗礼者ヨハネをお遣わしになりました。そして今、神はパウロをピシディア州のアンティオキアにお遣わしになり、イエスこそ、神の約束を実現する救い主であると告げののです。そして今朝、神はこの礼拝に集う私たちにも、イエスこそ、神の約束を実現する救い主であると仰せになるのです。

かつて神はアブラハムに、「地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る」と約束なさいました。神はすべての人を祝福するために、イエス・キリストを遣わしてくださいました。イエス・キリストこそ、すべての人の主です。イエス・キリストを信じるとき、私たちも神の祝福にあずかる主の民として生きることができるのです。神との約束であるイエス・キリストを信じて、新しい一週間過ごしてまいりましょう。